あなたへの医師キャリアガイダンス

岡田　定，堀之内秀仁，藤井健夫　編

＜書評者＞　石見　陽　（メドピア(株)代表取締役社長/医師・医学博士）

実は，私自身も医学生時代，聖路加国際病院の研修とはどんなものなのだろう？　と思い，半日だけ病棟を見学させていただいたことがある。地方の大学に通っていた私は情報に疎く，「将来は人が多く，モチベーションの高い仲間に囲まれる環境で働きたい」と考えながらも，部活動中心ののんびりした学生生活を送っており，気づいた時点で聖路加国際病院の夏休みの見学の応募期間は過ぎていたのだった。あきらめきれなかった私は，友人のつてをたどり，非公式に半日だけ院内を案内してもらった。その夜に開かれた宴会で聖路加国際病院での研修の激しさをうかがい，医師になるというのはこういうことかと身が引き締まる思いをしたことを思い出す。何よりこの病院に所属している研修医の方々の誇り・病院への愛情を感じ，感銘を受けたのである。結果として私は研修先を東京女子医科大学に決め，聖路加国際病院で研修をすることはなかったが，今でも私の中の憧れの病院であることに変わりはない。

さて，本書は岡田　定先生，堀之内秀仁先生，藤井健夫先生が編者となり，過去または現在において，聖路加国際病院で診療にかかわった数十名の先生方が執筆した医学生・医師向けのキャリアガイドである。各先生方が，医師になるにあたってどのように悩み，医師になってからどのようなキャリアを志向し，障害を越え，今後どのように進んでいこうとしているのか？　後輩である医師・医学生を想定して執筆されている。

私は，現在週一回の臨床医，その他は会社経営者と二足のわらじを履いている，いわゆるベンチャー起業家であるが，本書を完読して最初に「皆さん，結構起業家の考え方と似ているな」という感想を持った。

アップルの創業者として有名な，故 Steve Jobs 氏の Stanford 大学でのスピーチは経営者の間では有名である。Jobs 氏は「Connecting Dots」というテーマで講演した。そのときそのときで自分の興味のあることに全力で取り組んでいれば，将来は 1 つひとつの点（dot）がつながり，線となり面となるという話だ。

本書では，皆が思い思いに自身の考えを執筆しているわけだが，その中のなんと 3 名が上記 Jobs 氏の講演にふれているのである。また，Jobs 氏の講演にふれていなくても，多くの執筆者が「目の前のことに全力を尽くせ」とのメッセージを伝えている。

経営をしていると，どうにも理不尽なことばかり続き，「他の道はなかったかな……」と思うことも多い。そのようなときには，自分がどうしてこの道に入ったのか？と自問するようにしているわけだが，結局最後は「全力でやりきるしかない。後はなんとかなる」という結論に思い至る。原則は聖路加を選択した医師も経営者も自分の意志で選択した道である。ある程度不確実さを残しながらも，自分で選択した後は，目の前の 1 つひとつの点（dot）を全力でこなしていく。このようなある種の愚直さの重要性がこの本のメッセージとなっている。

医師の卒後臨床研修が必修となって 8 年が経つ。それまで卒業大学の医局に所属することが一般的だった医師のキャリアに多くの選択肢が与えられることになった。その大きな変化の前から臨床教育に力を入れていた聖路加国際病院，そしてその病院に集っていた意識の高い医師が本音で語っている本書は，激動の時代の中で進路に悩むあなたに必ずや 1 つの道しるべを提示してくれることであろう。

●A5　頁 240　2012 年
定価 1,890 円
（本体 1,800 円＋税 5%）
［ISBN978-4-260-01620-9］
医学書院 刊

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2013

2026/09/17 09:50:57